

令和5年度 施政方針

(はじめに)

「人と想いが つなぐつながる しあわせなまち 大家族たかはま」。

これは、本市がこれからの約10年間で目指していく姿、この4月からスタートする第7次高浜市総合計画の将来都市像であります。

振り返りますと、平成21年9月に私が高浜市長に就任し、早々に着手したのが、第6次高浜市総合計画の策定でございました。多くの市民の皆様と行政が一緒になって作り上げた将来都市像は「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」でした。

高浜市は、住んでいる人、事業を営んでいる人や、活動をしている人など、様々な人たちの営みによって成り立っています。そうした人たちを1つの家族、すなわち「大家族」と見立て、みんなで力を合わせて高浜市を創り上げていく、そんな想いが込められた将来都市像でした。

そんな未来を目指し、走り続けてきた12年間が終わり、さらなる10年後の目指す姿、将来都市像を前回と同様、市民の皆様と一緒に考えてまいりました。導き出された答えは、『これまで積み重ねてきた人と人とのつながりや想い、そんな大家族としての「きずな」をこの先もずっとつないでいくことで、しあわせを感じていただける、そんなあたたかいまちにしていきたい』、というものでございました。

私たちが歩んできた道は間違っていなかったと感じるとともに、高浜市総合計画審議会の最後に答申をいただき、受け取った計画書は非常に重く感じました。それは計画書に、将来に向けた多くの市民の皆様の想い、期待が詰まっていたからだと思っております。

しかしながら、新たな未来へ向けた門出は希望と不安が入り混じるものと感じております。

長期化する新型コロナウイルス感染症の影響、国際情勢の緊迫化による原油価格や物価の高騰など、社会を取り巻く環境は大変厳しく、カーボンニュートラルなど持続可能な社会を形成していくためのSDGsへの対応やデジタル化の促進、子ども家庭庁創設に伴う対応など、社会の変化は速く、今後も新たな対応を求められる状況が続いていくものと思っております。

そうした状況下ではありますが、昨年12月に開催をされたサッカーワールドカップカタール大会において、日本代表は、「新しい景色を見に行く」という言葉を合言葉に、優勝候補であるドイツ、スペインに勝利し、グループリーグを突破しました。さらに、日本がこれまで経験したことがない「新しい景色」である、ベスト8以上への進出を目指し、決勝トーナメントにおいても果敢に挑み続ける姿は、我々に多くの感動を与えてくれました。

本市もサッカー日本代表と同じように、経験したことがないような状況の中でも、しっかりと目標を見据え、これまで積み上げてきたことを活かし、大家族たかしま丸となって取り組んでいくことで、目指すべき新しい景色にたどり着けるものと思っております。

その目指すべき姿への「道しるべ」となる第7次高浜市総合計画を市民の皆様と一緒に着実に推進をしてまいります。この計画の推進が、SDGs（持続可能な開発目標）の世界共通の17の目標に向けて、市民の皆様と一緒に取り組むことにもつながるものであります。

令和5年度は、第7次高浜市総合計画の計画期間の初年度となります。その当初予算の編成については、限られた財源を有効に活用し、将来を見据えた安定的で持続可能な財政基盤を構築するための、アプローチを変えるチャンスと捉えました。

これまで、事業を作り上げてきた経緯や想いは尊重しつつも、固定概念に囚われず、視野・視点・視座を変えながら、目指したい未来を実現するため、令和5年度当初予算を「第7次高浜市総合計画スタート予算」と位置づけ、総合計画の策定にも用いた、バックカスティングの考え方を念頭に、編成をいたしました。

この予算編成における2つの基本的な考え方は、「第7次高浜市総合計画の着実な推進」と「事業の見直しによる経常経費の削減」とし、5つの重要な視点を掲げております。

重要な視点は、「安心・安全な子育て環境に関する視点」、
「教育環境の向上に関する視点」、
「DX推進に関する視点」、
「地球環境の保全に関する視点」、
「福祉の重層的支援に関する視点」でございます。

（令和5年度の主要施策）

それでは、これより令和5年度の主要施策について、第7次高浜市総合計画の基本目標に沿って述べさせていただきます。

はじめに、基本目標Ⅰ「手を取り合ってみんなでまちをつくろう」でございます。

新しい時代に向け、高浜市にかかわるみんなが手を取り合って、しあわせなまちを育み、未来へとつないでいくためには、これまで積み重ねてきた地域の絆である地域コミュニティのさらなる活性化や市民一人ひとりが、個性を生かし、お互いを認め合いながら活躍できる環境を整え、デジタル化の推進など時代の変化に柔軟に対応していくことが求められてまいります。

「市民予算枠事業交付金制度」を見直し、若い世代がまちづくり活動に参加しやす

い仕組みを構築するとともに、市民会議をさらに充実し、より多くの方が参加しやすく、課題や目標を共有する場へと昇華させ、かつ一人ひとりができることの実践活動の推進へとつなげてまいります。

また、多文化共生に関する取組みを計画的に実施していくための「多文化共生推進計画」を策定するとともに、SNSや動画などを通じて、市の情報を多言語配信・発信するなど、国籍や文化の違いにかかわらず、暮らしやすい環境を整えてまいります。

市民サービスや行政事務の効率化を図ることや、デジタル技術を活用し、行政と市民・地域をつないでいくなど、デジタルトランスフォーメーションの推進が果たす役割は重要であり、着実に進めていくことが求められています。

これまでもマイナンバーカードを用いた転入・転出関係や子育て関係、介護関係の手続きのオンライン化、電子申請サービスのLINE連携など、各種行政手続きのデジタル化を進めてまいりました。

令和5年度では、令和4年10月に公表されました「地方公共団体情報システム標準化基本方針」に基づき、住民記録システムや印鑑登録システムの標準化対応を行うとともに、市民の皆様が安心してデジタル技術を活用していただけるよう、情報セキュリティポリシーの改定など、情報セキュリティ対策に取り組んでまいります。

また、市からの情報がより身近に市民の皆様が届くよう、現在では4,000人を超える登録者数となっている、市公式LINEに情報配信システムを導入し、セグメント配信といった、利用者が希望する情報のみを配信できるようにするなど、より活用しやすくしてまいります。

次に、基本目標Ⅱ「みんなで学び・高め合い 高浜の未来を育もう」でございます。

これまでも我々が大切にしてきたのは、これまでの高浜市を築き、紡いできた人の想いや心であります。これから先もその考え方は変わりません。我がまちに愛着と誇りを持てる次代を担う人材や、心豊かな人を育み、人と文化を未来につないでいくことが今を生きる我々の使命であります。

子育て・子育て支援では、令和5年4月の子ども家庭庁の創設など、国の動向を注視しながら、令和7年度から第3期がスタートする「高浜市子ども・子育て支援事業計画」の策定を、市民のニーズを把握しながら進めてまいりますとともに、吉浜幼稚園の長寿命化改修工事や吉浜北部保育園の長寿命化改修工事の実施設計を行うなど、子育て環境の充実を図るとともに、待機児童のない安全・安心な保育環境を目指してまいります。

また、すべての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境を整えるため、妊娠届出や出生届出を行った妊婦等に対し、経済的支援を行うとともに、多胎妊娠の妊婦健診に対する費用助成を拡充してまいります。

学校教育では、「第2次高浜市教育基本構想」に基づき、新たな学びの方針のもと、

学校教育のさらなる充実を図ってまいります。吉浜小学校の長寿命化改良工事に着手するとともに、高取小学校の給食施設の改築工事、高浜中学校のトイレの洋式化など、質の高い教育環境、学校施設の改善を進めてまいります。

たくさんの感動や体験との出会いは、人の心を動かす原動力です。人と人、人とモノ・コトとの新たな出会い・交流を生み出し、市民の皆様の想いに寄り添い、想いを触発する場として、いよいよ本年夏ごろには「かわら美術館・図書館」の運営がスタートいたします。「高浜の人とまちが育つ つながりの森 ーみんなで美術館 ささえる図書館ー」を基本姿勢とし、施設が持っている機能と結びつきながら、感じ、学び、発見する楽しみを生み出す取組み、子どもたちの学びや子育てを応援する取組みなどを進めてまいります。

次に、基本目標Ⅲ「行きたい 住みたい 住み続けたい 魅力がつながるまちをつくろう」でございます。

住みたい、住み続けたい。そう思っただけのまちとしていくためには、地域経済が活性化し、まちに活力が溢れているとともに、安全で安心して、そして快適に暮らせる社会生活基盤の安定・維持に努めていくことが重要であり、今後は地球環境にも配慮したまちづくりが重要であります。

快適な暮らしを支える都市基盤の整備として、道路、橋りょう、公園、水道施設などの計画的な維持・修繕を行ってまいります。

まちの活力を生み出し、安定した市民生活を支える基盤となる産業分野では、創業や経営改善等に前向きな取組みに対する「中小企業ステップアップ補助金」を創設するほか、「三州瓦屋根工事等奨励補助金」の手続きを簡素化するなど、企業活動の活性化に向けた取組を支援してまいります。

また、環境分野では、近年、気候変動が一因と考えられる異常気象、激甚な豪雨・台風災害や猛暑が頻発しています。そこで、脱炭素社会への移行に向けて、地球温暖化対策推進法に基づく「地方公共団体実行計画（区域施策編）」を包含するかたちで「環境基本計画」の策定を進めてまいります。

あわせて、計画期間が満了となる、本市のごみ減量の基本方針「ごみ処理基本計画」の改訂を進めます。市民の皆様には、地球温暖化対策設備の導入経費の一部を支援する、「スマートハウス設備設置費補助金」を創設し、温室効果ガスの排出量削減に向けた取組を推進してまいります。

また、資源ごみの分別方法等をお知らせする、ごみ分別アプリ「さんあーる」の多言語版を作成して、さらなるごみの減量と再資源化を推進してまいります。

次に、基本目標Ⅳ「心もからだも元気 毎日を笑顔で暮らそう」でござ

います。

福祉・健康では、引き続き、長期化する新型コロナウイルス感染症対策に取り組むとともに、子どもを中心に児童福祉、障がい、子育て支援、生活困窮者自立支援など妊産婦と子どもに関する包括的なワンストップ相談窓口「(仮称)こども家庭センター」の令和6年4月開設に向け、関係機関と調整を行ってまいります。

加えて、妊娠時から出産・子育てまで、一貫した伴走型相談支援の充実を図るため、SNS・アプリを活用したオンラインの面談・相談も実施をしてまいります。

また、身体の健康のみではなく、心の健康を保持するとともに、問題を早期に発見し、ケアしていくため、スマートフォンアプリ「こころの体温計」を導入し、気軽に相談でき、支援につなげていくことができる仕組みを構築してまいります。

福祉・健康に関する課題は、複合的な要素を含むことが多くあります。そうした課題に対応していくため、重層的支援対策を構築し、地域共生社会を実現するとともに、支え・支えられる関係の循環を生み出し、心身ともに自分らしく暮らし続けられる社会の実現も目指してまいります。

次に、毎日を笑顔で暮らすためには、安全・安心に暮らせる環境づくり、とりわけ「防災・防犯」は、市民のもっとも身近な、自分ごととして、関心が高いものであります。

昨年に引き続き、災害に備えて、前もって自分のとるべき行動を時間軸でまとめた避難行動計画「マイタイムライン」の作成を、市民一人ひとりに普及・促進してまいります。加えて、みんなで考える避難所づくりの成果をもとに総合防災訓練のあり方を地域と一緒に検討してまいります。

最後に、各目標の実現を支える行財政運営でございます。

現在、改訂を進めております「高浜市公共施設総合管理計画」による公共施設の安全性、重要性、経済性を踏まえた状態保全の考え方を軸として、公共施設管理システムを導入してまいります。

以上、令和5年度の市政運営に当たり、重点施策について、申し述べさせていただきました。

(結びに)

プログラミングの世界では当たり前に使われる言葉で、「機敏な」「素早い」といった意味を持つ、「アジャイル (agile)」という言葉があります。

例えば、スマートフォンアプリでは、アプリを一度リリースしておいて、不都合が生じた場合は、その都度修正してアップデートし、完成形に近づけていく手法が一般

的であります。

第7次総合計画では、この先10年間の目指すべきまちの姿を市民の皆様と一緒に描きました。計画では、それを実現するための取組みの方向性も記載をされています。しかしながら、それは、現時点の社会情勢や直面する課題を踏まえながら導き出したものです。

我々を取り巻く課題は多種多様化し、かつ、想像を超えるスピードで社会は変化しています。

決められた計画を実行しつつも、淡々となすのではなく、時代や社会の変化を肌で感じるにより、時に変化を加え、時に融通をきかせながら、様々な施策を進めていくことが大切であり、その先にこそ、みんなで描いた姿があるのだと思っております。

多くの人や想いが出会い、つながり合うことで、大家族のような、助け合い、支え合う、“おたがいさま”がつながる、そんなあたたかいまち「大家族たかはま」の実現に向けた第一歩の年、全力で邁進してまいります。

今後とも議員各位並びに市民の皆さまのより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます、令和5年度の施政方針とさせていただきます。